



ぼくのイメージにピッタリ！



図工の時間、木の枝や木の実を使った額作りに挑戦してみました。自然の中にあるものを使った工作。枝をとにかくたくさん拾ってきて、その中からどんな額ができそうなのか思い描く子や、「この枝を使いたい」と決めて外に行き、必死に探してくる子、作っているうちに「もっとこんな枝や木の実、葉っぱがあったらいいな」と感じ、外に探しに行く子など、それぞれこだわりをもちながら作品を作っていました。

Nさんは、枯れ落ちたユリノキの果実の芯を拾い集めていました。Nさんは、最近ユリノキの下におもしろい形の芯が落ちていることに気が付いていて、授業の導入で私が予め制作しておいた額を見せた時、すでにその芯を使って制作することを思い描いていたようです。他にも枝や木の実を持ち帰ってきたNさんは、授業の中だけでは構図が決まらず、「あ～！全然決まらない！脳みそをたくさん使いすぎた！」と授業後に言っていました。工作でもたくさん考えるのです。そんな姿や素材のことを全体で紹介すると、「自分も使ってみたい」と願う子も。Yくんは、製作中に何かが足りないと思ったのか、そのユリノキへ向かい、果実の芯を探し始めました。どうやら「1本だけ使ってみたい」とのこと。最初はなかなか見つからなかったのですが、ようやく1本見つけ、教室に戻るのかなと思うと、また違うものを探し始めます。そして、もう一本を見つけると、「これだ！」と言い、最初に見つけた芯は地面に置き、納得した様子で教室へ戻って行きました。2本目のものにしたその理由をYくんに聞いてみると、「最初に見つけたのは形が真っ直ぐで僕のイメージと違うから。次に見つけたものの形は、ちょっと曲がっていて独特でおもしろいから。」と言っていました。ある子の日記には「いいものを作ろうと思うと、どんなふうに枝を置こうかすごく迷いました。」と書いてありましたが、「こうしたい！」という願いや、素材や構図へのこだわりがあることは、ものづくりをする上でとても大切なことだと思います。出来上がった額には、玲菜画伯（絵がとても上手な音楽専科の先生です）から教わった「にじみ」で描いた絵を飾ることにしました。一つ一つの色を慎重においていく子どもたち。素材や配置にこだわった額に飾る絵にも、とことんこだわる姿が印象的でした。



額作りの他にも、自分たちで探してきた枝等で思い思いの作品を作っていました。どれも個性が溢れる素敵な作品です。削った木を触りながら「気持ちいい！ずっと触っていたい！」と、その触り心地に感動する子もいました。

夏休み明け、外にも足を向け、自然に触れる中で、さらに木の可能性を探っていきたいと思います。